

雲仙火山における地磁気の観測*

Geomagnetic Observations at Unzen Volcano

京都大学理学部附属火山研究施設
Aso Volcanological Laboratory,
Faculty of Science, Kyoto University

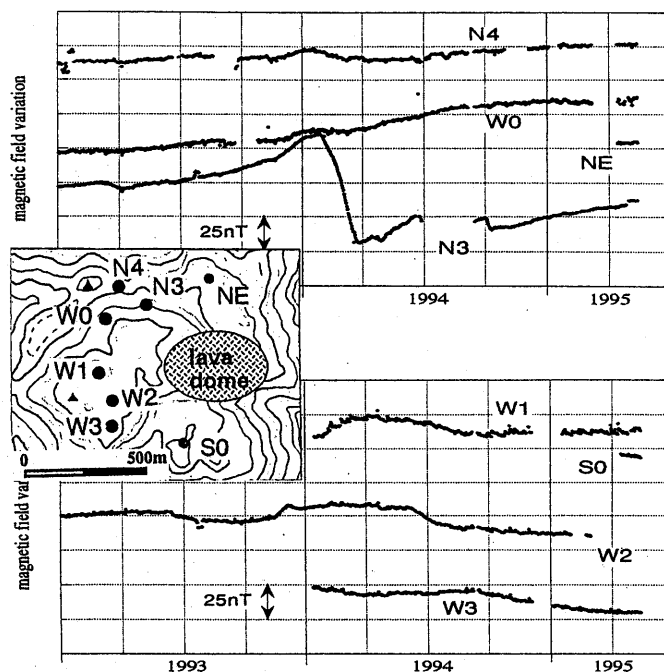
地磁気全磁力変化

第1図は、1993年1月から1995年5月までの普賢岳山頂部における地点N3、N4、W0、W1、W2、W3、NEおよびS0の地磁気全磁力変化である。プロトン磁力計による00時から3時59分までの5分ごとの測定値を平均して夜間平均値とし、その値から火山研究施設における同時刻の測定値を減じて単純差を求め、これを日値としたものである。

1994年9月以降、ドームの北側の地点であるN3、N4、W0およびW1では地磁気全磁力が増加が観測され、逆に、南側の地点であるW2およびW3では減少の変化が観測されていた。しかし、この変化は、1995年5月の時点で、地点N3およびS0を除き、停止している。

この原因は明確でないが、1995年1月以降、ドーム直下への熱供給が減少しているものと考えられる。

磁化の獲得段階になって火山活動が終息するとする熱磁気的見地からみると、今回の磁化の停止状態にある現段階を火山活動の終息と判断するには早急であり、今後の地磁気変化の様子を見ていく必要がある。



第1図 雲仙岳山頂部におけるプロトン磁力計による地磁気全磁力変化
(基準点は京都大学火山研究施設(熊本阿蘇)で、夜間00時から03時59分までの
値を平均し、単純差で日差を求めている)
(1993年1月~1995年5月)

Fig. 1 Geomagnetic total intensity observed at stations near the Jigoku-ato crater on Unzen Volcano during the period from January in 1993 to May in 1995. Data measured at every 5 minutes were averaged from 00:00 to 03:59 and reduced to those at Aso Volcanological Laboratory (about 73 km east).

* Received 29 June, 1995